内科からみた有病者歯科

高 田 豊

九州歯科大学内科学講座 (主任: 高田 豊教授)

Dentistry for Medically Compromised Patients Viewed from Internists

Yutaka Takata

Department of Internal Medicine (Chief: Prof. Yutaka Takata)

Kyushu Dental College, Kitakyushu, Japan

はじめに

近年の我が国における成人病有病率の上昇や人口構成の急激な老齢化に伴い今後全身疾患を持った歯科患者の増加が予測される。九州歯科大学附属病院においても医科疾患、特に内科疾患を合併症として持った歯科患者の増加が最近見られるようになった。また、有病者歯科、高齢者歯科、感染症歯科は今後の歯科診療における重要課題のひとつと考えられるが、当大学附属病院においては、これらの現状把握が十分でない。そこでこの総説では当大学附属病院での研究結果を中心に、内科からみた有病者歯科 (老年者歯科、感染症歯科を含む) を、当附属病院の歯科外来 (全ての歯科診療科の患者を対象)、歯科入院患者 (口腔外科患者だけを対象)、内科外来患者・針刺し事故、抜歯時の血圧変動といった方向から検討し、今後の有病者歯科の診療・研究に役立てたい。

外来歯科患者における医科・内科疾患有病率¹⁾

平成7年の当大学附属病院外来歯科初診患者990名のアンケート調査による医科疾患全体の現有病率 (全体の有病者301名, 30.4%) は老年者を診療する機会の多い歯科麻酔科 (平均50.3歳) と補綴科 (58.8歳) がそれぞれ47.8%と44.3%と高率であった。内科疾患 (高血圧, 狭心症, 不整脈, 脳卒中, 消化性潰瘍, 糖尿病, 肝臓病, 腎臓病) 別では高血圧 (85名), 狭心症 (25名), 消化性潰瘍 (21名) など現在の高率が高かった。これらの内科疾患全体を年齢別に区分して検討すると図1の様に著明な年齢増加に伴う有病率の上昇が見られた。特に高血圧, 狭心症, 消化性潰瘍, 糖尿病の頻度が高く, かつ加齢による増加も顕著であった (70歳以上の有病率は高血圧24.2%, 狭心症13.7%, 消化性潰瘍

10.5%, 糖尿病6.3%)。

入院歯科患者における内科疾患有病率^{2), 3)}

平成6年の口腔外科入院患者は587名 (重複患者は1回の入院とする) で, 10代, 20代, 50代が多かった。60歳以上の老年者は138名であった。病歴聴取から得られた内科合併症は高血圧などの循環器疾患が最も多く, 次いで肝臓病などの消化器疾患, 糖尿病などの代謝疾患が多かった。入院患者の1/3が有病者であったが, これら有病者のなかで複数の疾患を有する患者が1/3を占めていた。有病者は加齢で著増し (図1), 特に高血圧, 心臓病, 糖尿病が頻度も高くかつ加齢で増加した (70歳以上の有病率は高血圧34.3%, 心臓病31.3%,

図1 年齢別内科疾患有病率 (外来患者と入院患者との比較): 0; 0-9歳, 10; 10-19歳, 20; 20-29歳, 30; 30-39歳, 40; 40-49歳, 50; 50-59歳, 60; 60-69歳; 70; 70歳以上

糖尿病 20.9%)。外来歯科患者の有病率と比較するとどの年齢群でも有病者の頻度は入院患者がより高い傾向であった(図1)。次に病歴ではなく入院時の診察・検査結果から有病者を検討した。診察・検査結果から診断された高血圧、糖尿病、高脂血症、肝疾患、貧血は病歴聴取からの有病率よりも高い頻度でみられ、加齢と共に増加していた。

内科外来患者^{(4), (5)}・針刺し事故の検討⁽⁶⁾

当院内科外来患者は平成7年には平成1-3年に比較して14倍に増加したが特に口腔外科入院患者の紹介患者が増加していた(図2)。口腔外科入院患者の口腔外科基礎疾患のうち悪性腫瘍は13%にすぎなかったが、内科受診口腔外科患者の半数を悪性腫瘍患者が占めていた。内科受診口腔外科患者の内科的疾患では高血圧、不整脈などの循環器疾患、糖尿病の代謝疾患、肝臓病などの消化器疾患が多かった。感染症歯科関連では、口腔外科入院患者中HCV抗体陽性6.5%、HBs抗原陽性

2.2%であった。

また、歯科診療中の針刺し事故による内科受診患者も急増しており、平成5年5名、6年10名、7年20名であった。事故の原因としては麻酔針、縫合針を中心とした針によるものが多く、7例がHCV陽性患者の血液汚染針であった。現在のところ肝炎の発症例はなかった。

抜歯時の血圧変動⁽⁷⁾

歯科患者の合併医科疾患として一番頻度の高い高血圧症患者の抜歯時の血圧変動は日常歯科診療時に最も考慮すべきものの一つである。そこで抜歯時の血圧変動とその関連因子について当院口腔外科外来患者を用いて検討した。対象は抜歯を目的に口腔外科第2を受診した23名(男9名、女14名;平均44歳;高血圧者4名)の患者。抜歯前に既往歴聴取、不安度調査、安静時心電図記録、暗算によるMental stress testを行なった。抜歯時の血圧変化を2分毎に測定した。抜歯にて血圧は $24 \pm 4 / 13 \pm 2$ mmHg上昇したが、この昇圧の一部は歯科診察台に移動することだけですでに出現していた。抜歯術による昇圧の大である群(15 mmHg以上)と小の群(15未満)で比較すると、昇圧大の群では手術時間が長く、局所麻酔薬使用量が多かった(図3)が、安静時血圧、高血圧家族歴、性別、年齢、不安度、Mental stressの昇圧度などには両群に差を認めなかった。

まとめ

歯科患者の内科疾患有病率は外来患者よりも入院患者で高い傾向にあり、加齢で著しい有病率の増加を認めた。歯科患者の有病率で頻度の高い内科疾患では循環器系、消化器系、代謝系疾患が挙げられ、単一の疾患として高血圧、狭心症、不整脈、消化性潰瘍、糖尿病、肝臓病が多かった。肝炎ウイルス陽性率はC型、B型ともに歯科入院患者で一般住民よりも高い傾向を示した。当院の針刺し事故は最近増加していた。抜歯時の昇圧度を規定する各種因子のなかで手術の難易度が一番大きい因子であった。

参考文献

- 1) 高田 豊, 笠井幸子, 加藤恭裕, 橋田ひとみ, 藤川 潤, 豊田一則: 九州歯科大学附属病院歯科外来患者における有病者の検討. 九州歯会誌, 50: 595-599, 1996.
- 2) 黒田健郎, 高田 豊, 黒川英雄, 立石 晃, 原 巖, 橋田ひとみ, 豊田一則, 福田仁一, 梶山 稔: 九州歯科大学附属病院口腔外科入院患者における有病者の実態. 九州歯会誌 50: 362-366, 1996.

図2 種類別内科外来患者受診回数経年的推移

図3 昇圧群・非昇圧群別局所麻酔薬使用量・手術時間

- 3) 高田 豊, 黒田健郎, 黒川英雄, 立石 晃, 原 巖, 藤川 潤, 豊田一則, 橋田ひとみ, 土橋卓也, 八尾博史, 福田仁一, 梶山 稔: 口腔外科入院患者における加齢と内科疾患の関連. 九州歯会誌 50: 477-483, 1996.
 - 4) 高田 豊: 九州歯科大学附属病院内科外来患者の臨床統計学的観察. 九州歯会誌 49: 394-398, 1995.
 - 5) 高田 豊, 豊田一則, 藤川 潤, 橋田ひとみ, 黒田健郎, 八尾博史, 土橋卓也, 福田仁一, 梶山 稔: 平成7年九州歯科大学附属病院内科外来患者の臨床統計学的検討. 九州歯会誌 50: 385-390, 1996.
 - 6) 豊田一則, 高田 豊, 藤川 潤, 黒田健郎, 八尾博史, 土橋卓也: 歯科診療に伴う針刺傷事故の検討. 九州歯会誌 50: 411-414, 1996.
 - 7) Tsuchihashi T, Takata Y, Kurokawa H, Miura K, Maruoka Y, Kajiyama M, Fujishima M: Blood pressure response during dental surgery. Hypertens Res 19: in Press, 1996.
- 第56回九州歯科学会総会特別講演より要約—